

2019 展望

道路舗装



市況は2020年東京五輪への対応に加え、25年大阪万博の誘致も決まり、今後も堅調に推移するだろう。ただ、原油価格の高騰や石油精製技術の高度化の影響もあり、原

大成ロテック

西田 義則社長

材料のアスファルト価格は高止まりしており、利益確保が厳しい。

3カ年の新中期経営計画が18年度にスタートした。下期

に新東名高速道路の6車線化に対応した大型工事を受注したこともあり、残り3カ月で何とか初年度の受注目標を達成できそうだ。

新計画では、収益力の向上、働き方改革・生産性革命、新

規事業への挑戦を柱に掲げている。景観舗装や常温合材の販売に力を入れ、ベトナムを皮切りに東南アジアでの事業も展開する。

大成建設グループとして連携化にも取り組む。大規模な造成と建築工事を大成建設、外構は当社が手掛けるなど、プロジェクトを連携して

仕上げられるようにしたい。当社としても建築工事にも

力を入れており、倉庫などS造の建物を造成、建築、外構と一貫して手掛ける。道路舗装工事で進めてきた地域密着型の事業展開を生かしていきたい。

グループ連携を一層強化

働き方改革関連法に基づき、罰則付き時間外労働時間の上限規制は建設業で5年の猶予があるが、製造業の製品販売では待ったなしだ。人員増強で対応するほか、工場リニューアルやICT（情報通信技術）の活用で省力化に取り組んでいく。